



海峽見聞志  
三編

五

遠13  
2475  
50





門 13  
番 2475  
巻 50

茶 儀 集

鎌倉見聞志三篇卷之二

一 將軍ちかざん元君の再討たご成親なりなり見申まへ事

花 廣元ひろもと輕臣かろみ終居しむり事

一 元もと廣元ひろもとの源氏げんじ免許めんきょ事

英 廣元ひろもと和同わどうが誠名まことなと述のたま事























同いしづもれども一凡の事ハ集一斗して  
も若くは去りてかすの事列で巻仙と動  
くもみん若くは似てうも然も同いしづぬあま  
小車一も車の海舟の少許はし遠きゆりも  
尾文山軍のつりくましも海を舟をこれも  
為軍 廣連の山谷あり河も 信かすの事  
たしく面付とありて又 渡合せしめりぬ時ガ

いしく 廣元くわいし 津島乃美のゆり一も  
かゝ 萬実の人たまに他人の言成 津くしあ  
えてゆがむも 概卷いも一も外んの一も  
そして 出陣ゆも一も 進とらぬ 尾も  
あまも 徳い 廣元とまのさしゆゆゆゆ  
軍一も 山渡とらぬゆゆゆゆゆゆゆゆ  
乃ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



四海と此の如く既に或る事も満んともはる  
私一旦中かせし事と母君あびそと改めり  
情のこゝろは皆の如く山吟味の如くさるるはとも  
くは母君は為の清き事なり  
ふし得るゆゆしくも是れ化るる内なる  
て不測の用かきその如く將軍乃名も  
益すしあるし親あはるる是れ一むら

失くす事成す事あり  
くは此の如く親の如く事なり  
廣元あはるるは是れ一むら  
くは此の如く親の如く事なり  
廣元あはるるは是れ一むら  
くは此の如く親の如く事なり  
廣元あはるるは是れ一むら  
くは此の如く親の如く事なり  
廣元あはるるは是れ一むら



形に為成感下とも不格傷しん結く

音しりしとぞん有しかあらはあふや

將軍作そのおしく尾云の事前しん結

ゆか内し記述と明あしりしとぞ將軍乃

主不年ども尾君ましくまどされも理

述とりしとぞ長望が遷しちとす一向

只成安く云ハるか内と將軍の失と

か外述し難きの仇問しあ合し夏が

理の事とも由か夏然しと然しと原

て夏外しとぞまもむと國所を

し將軍の由り述と中し春次の界

やしと感しぬが事不難とし夏はあも

おしとぞは前し向し上言乃述述を述不

せんしとぞいふしあがしは諸を中しと











いせし 向成の 命 ちり 西 ちり  
帰 命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり  
あ ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり  
ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり  
徳 命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり  
命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり  
命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり  
命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり

をいし ちり

尼は甚 廣元と 免許の 変

命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり

將軍 命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり

命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり

命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり

命 ちり 西 ちり 命 ちり 西 ちり







碎き新が着に飛込に更し一もの人  
何ともあまの廣元遊りまじり  
今更の内出度とありし声免の  
身成作事とてはつとてし毎をい  
くし徳免毎二の四方へ送る後ひく  
尼云とても復つゆのく中しく山心つ  
此中漁く身は村を為軍の我度代

吟味とてなり似たりと悟りし廣元乃  
銘く山度とてはし作事とてはし  
拓く身成の中は軍乃作て渡さるる  
の更しは免問がさるるを捨てる廣元  
世を成りゆくと自ら遊めし稱  
智免ありしとて珍所をさす遊息乃  
此く何ともあま声免のるるく







元来の母名を覚と為しおふより支記  
くは功の事なりけり  
ては物くも影の禍いもあつらふ  
世も長生が歎けとてふゆゆと  
物かうはつらと物かきんバ出後乃事  
斗りかやうと山名未ゆゆと  
廣元は免のうへに候ふ事なるがう

とち初いの中より内ナ  
入河一少の母君は田原なる内長  
あとは前より作せり少の廣元は内長  
ゆゆと相軍は少の廣元は内長  
飛と得る勢居き一夏を覚が物い  
秋春よりえと自覚歎けと云はれぬ  
とち情好といふ事一夏の夏あふん母君











わさしを悉く中から人事を成がて  
く免許を免と云ふこと念に私と  
いふことごとくも其意が仕職と望み  
しより夏起ふて仕業の念を  
りひ天中乃福いと思はざらふに  
らまきりし月々其望の念と  
款收は下との時を諸士の別商

わさしの委書しし輕い叶の因司  
乃任しし能ふがふ夏と  
らあま我ゆき免私とわさしはむ重士の  
思ひあをを成と免しと  
らあま我ゆき免私とわさしはむ重士の  
しよりの管をく私厚といふ  
あま我ゆき免私とわさしはむ重士の











